

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 枚方市
 実践研究校名 樟葉西小学校

【公開授業】公開日：平成25年11月1日

対象学年：第5学年

| | |
|--|--|
| (教材・教科書名) Hi, friends! 1 (单元名) What's this? | (本時の指導の目標) 友だちとコミュニケーションをし、みんなで協力してクイズ大会を成功させる。 |
|--|--|

(本時の授業において工夫した点)

- 一人ひとりの強みを生かし、すべての児童が参加できるよう様々な方法でヒントを出すようにした。
 (英語で質問する・ジェスチャー・口まね・絵を描くなど)
- すべての児童が発言でき、楽しむことができるようにした。

(授業を終えた教員の感想)

- 児童一人ひとりが、準備・練習・本番までとても熱心に取り組んでいた。
- 授業の中心が(教師ではなく)児童であったからこそ、大成功したと実感した。
- 児童が「楽しかった」という意見に加えて、「英語がわかるようになった」「もっと勉強したい」と感想が多くよかった。

【研究協議会】

| | |
|---|---|
| (テーマ) 自分たちで作成したクイズを出し合いながら、友達と積極的にコミュニケーションを図ることができるようになったか？ | (指導・助言者) 枚方市教育委員会 指導主事 森直樹 主幹 英語教育専門員 宮西信幸先生 |
|---|---|

(研究協議会で出された意見)

- すべての場面で英語を使う必要性があった。有意義な学習であった。
- 第1時からの取り組みが活かされて本番ができあがったと感じた。
- すべての児童が楽しそうに笑顔で参加し、積極的に盛り上げようとしていた。
- 1時間の全てをクイズ大会に使うのではなく、フレーズの復習などから始めてもよかった。
- クイズの答えをカタカナではなく、ローマ字で書かせてもよかった。

(まとめ)

自ら進んで英語を使おうとする担任の姿勢が、児童の学習意欲を引き出していた。その姿勢に喚起された児童が間違いを恐れず英語を使うことで、周りの児童も、またそこから学ぶという好循環が生まれていた。